

# 事業報告書

## 事業名

鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した  
「武州青梅 三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし



## ① 実施団体

武州青梅 三田弾正手作り甲冑隊

## ② 担当課

教育部文化課(郷土博物館)  
商工観光課

## ③ 実施時期

平成28年 7月～平成29年 3月

## ④ 参加者

15名

## ⑤ 実施場所

永山ふれあいセンター

## ⑥ 事業の目的

青梅市の市名の由来である平将門の子孫と称する三田弾正を活かした地域おこしに向け、また観梅市民まつりに参加するための手作り甲冑教室を開催するとともに、郷土の歴史と文化を学び合うことを通じて郷土を愛する心を育てる。

## ⑦ 役割分担

- ・ 団体の役割 地域資源「武州青梅 三田弾正甲冑隊」を新たな観光資源にする  
青梅市の歴史に関する「武州青梅 三田弾正」が地域資源であることを広く市民に周知でき、新たな観光資源として内外にアピールすることができます。
- ・ 担当課の役割 特色ある協働事業を推進し、団体、地域から信頼されるよう協力して、事業が積極的に取り組めるようサポートを行う。  
参加者募集の広報活動を協力  
完成した甲冑の今後の活用方法の協力

⑧ 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

これから三田氏ゆかりの地域との交流を進めながら広域的に「三田弾正甲冑隊」を市内外に宣伝して、青梅の地域活性化や観光の振興につながると思います。

⑨ 目標達成

事業の目標： まちの歴史を知ることによって郷土を愛する市民をふやす  
 手作り甲冑教室や郷土史講座などを通じて青梅市を再発見して  
 郷土を愛する心をもった市民が増えるきっかけづくりとします。

目標の達成具合： 第一回（7/17）、第二回（12/4）の郷土史講演会では延べ120名を超える市民が参加し、郷土を愛する市民が増えたと思います。

⑩ 事業の実施内容

- 第一回郷土史講演会 平成28年7/17（日）参加者 約 50名
- 第二回郷土史講演会 平成28年12/4（日）参加者 約 70名
- 手作り甲冑教室（永山ふれあいセンター）参加者延べ 約 340名  
平成28年7月～平成29年3月 のべ21回開催
- 地域イベントへの参加  
産業観光まつり11/5（土）～6（日）甲冑教室のパネル展示と試着体験  
観梅市民まつり 平成29年3/12（日）甲冑の武者行列によるPR

⑪ 実施団体と担当課の事業評価

4 はい      3 どちらかといえば「はい」      2 どちらかといえば「いいえ」      1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
(4) 協働相手は適切だった	3	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑なされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	3	3
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

⑫ まとめ(今後の課題や改善点など)

現状・課題・目標達成: 梅の伐採により、青梅を訪ねる観光客の認知度は残念ながら低い状況にあるが、三田弾正甲冑隊を旗印にした地域おこしの活動によって、他の地域にも青梅市をアピールすることができ、市民にも「武州青梅 三田弾正甲冑隊」の認知がすこしずつ広がってきた実感がある。

事業内容: 事業としては少しずつ、広がってきましたが甲冑教室を月2回プラスα実施していたので運営スタッフにとってこの9ヶ月、負担が大きかった、今後はスタッフをもっと増やすことが必要だった。

協働という事業形態: 行政ではできない自由な発想での地域おこしができた自負があり、郷土博物館との協働により甲冑教室に対する信頼度が増し、特に広報においてはとても効果的だったと思います。情報交換や話し合いの場はあまりもてなかったので、今後はもっと連携を密にすればより効果的な活動ができると思います。

⑬ その他

実施能力: 甲冑教室や他の地域交流等を通じて、一緒に活動してくれる仲間の輪が広がったので、さらに幅広い活動ができるようになったと思います。

事業の実施で学んだこと: スタッフ同士の連携や細かな打ち合わせを継続していくことの重要性を学んだ  
青梅には潜在的に地域おこしに参加したいと思っている人びとがたくさんいるということ学んだ

新たに気づいた課題: 運営スタッフの増員と育成の必要性また市民参加の重要性をあらためて痛感している

最期に: 事業は3月に終わりましたが、現在、完成した甲冑5領では、活動範囲が限られ効果的な地域おこしには無理があります。次年度には協働事業の継続などをお願いします。